

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700364		
法人名	株式会社 アールアイエス		
事業所名	洛和グループホーム太秦 (1F)		
所在地	京都市右京区太秦袴田町9-1		
自己評価作成日	平成23年8月27日	評価結果市町村受理日	平成24年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670700364&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670700364&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年10月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で、利用者様がその人らしく笑顔で過ごしていただけるように、お一人お一人の状態に合わせた個別ケアを大切にしている。  
またその個別ケアを実施していく中で、地域住民との交流を少しでも増やせる(密にできる)よう、外出を好まれる方は、地域の催しには出来る限り参加し、また昨年は、職員だけの参加になっていた地域の清掃活動への、利用者様の参加も考えている。  
屋外に出ることを好まれない利用者様や、また夏場や冬場などの天候的に外出が困難な時期の筋力低下を、少しでも軽減できるよう、館内(リビング)で、体操をしている。また、利用者様の健康維持促進の為に毎食後の口腔ケアの実施も行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は利用者が笑顔で暮らせるケアと共に地域に開かれたホームを目指し理念を掲げています。利用者の思いや意向を大切にケアを行うため、全職員が利用者の表情、行動、会話を絵や文でその人を表し、それを共有することで日々のケアに活かしています。活動的に過ごせるようリビングを挟んで両側にある長い廊下を生かして、運動不足を補う為歩きやすくし、テーブルと椅子やソファを置き、疲れた時はいつでも休憩やおしゃべりができるようにしています。また今までの生活を大切に、居室を自宅に近い設えにしたり利用者の行きたい所へ個別に出掛ける等、個別ケアに努めています。また、地域交流にも積極的に取り組み、地域の清掃活動や行事に参加したり、今年の秋には駐車場を使用して太秦まつりを開催し、地域の人にも来てもらい交流を深めています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔と居心地の良いケアを求めて との理念を掲げ、その理念を各ユニット玄関に掲示している	和のつながりを大切に地域に開かれた事業所ということを理念に掲げ、職員全員が常に念頭に置いて、会議で話し合い行事等を開催しています。また、笑顔と居心地の良いケアを求めてという理念には、個々の利用者のニーズにそったケアが提供できるようケアカンファレンスで話し合い実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に参加してもらえるような行事を企画している 町内会の清掃活動に参加している 利用者と散歩に出かけた時には、挨拶だけでなく気楽に立ち話をするよう心がけている	自治会に加入し回覧板等で地域の行事の案内をもらっています。以前は職員だけが参加していた地域の清掃に利用者と一緒に参加するようになってきました。また、地域で行われる消防訓練にも一緒に参加しています。今後更に事業所の行事を地域にアピールしていきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を開いている 町内の回覧板にグループホームからのお知らせを載せていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、会議を開催しており、対象月の現状・行事の報告、また事故(ヒヤリハット・不適合など)の報告をし、その際に事故対策も同時に報告している	運営推進会議は民生委員2名、市の担当者、家族等の参加で2ヶ月に1回開催しています。事故の対応についてや行事や活動の予定と内容等を報告し、家族をはじめ参加者からそれらについての意見をもらい、参考にし行事の企画に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	右京区施設連絡会に可能な限りの参加をめざしている	区の福祉担当者との連絡のやり取りは少なく、区の施設連絡会にも出席できていない状態が続いています。管理者はその必要性を認識しており、関係作りに取り組みたいと考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待マニュアルがあり、また研修に参加している	身体拘束についてのマニュアルを職員がいつでも見れる所に置き、カンファレンスの話の中に拘束に繋がるような状態があれば注意し、職員の意識を高めるよう取組んでいます。玄関の施錠はせず、利用者がいつでも外出できるようにしています。ドアには出入り時に音が鳴るようにし、職員が一緒に出掛けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修があれば参加し、日々職員間で注意をはらっている		

洛和グループホーム太秦(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加し、学ぶようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に口頭と書面にて十分な説明をおこなっており、改定等あればその都度説明をおこなっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階入り口に意見箱を設けている 家族には年に2回アンケート調査を行っている 運営推進会議にて家族や近所の方から意見を頂いている	家族の来訪時や電話等で直接利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いています。法人によるアンケートが定期的に行われ、出された家族の意見等について職員と話し合い、取り組みに繋げています。決まった内容は全家族に送付して伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニットカンファにて、ケアプラン以外の業務に関する意見も聞き、反映させている。その他早急性があるものはその場で意見をききその都度反映させている	職員は定例カンファレンスに向けて、事前に自分の意見をまとめるなど、全員の意見が言い合えるよう積極的に取り組んでいます。利用者の筋力低下を防ぐための運動、ボランティアを積極的に受け入れる事、共用スペースのレイアウトの変更など、職員の提案が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回職員の力量評価と希望調査を行う 考査を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続1年未満者対象の力量評価表にて力量を把握し、研修にはできるだけ参加できるよう勤務調整している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時から、相談員だけでなくユニットリーダーも同行し、ご本人から話を聞く機会をつくっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時から、相談員だけでなくユニットリーダーも同行し、ご家族からも話を聞く機会をつくっており、また入居後も面会時に近況報告をし話す機会をつくっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族・ホームがそれぞれできる事を話し合い、協働できる案を探し出している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、日々の家事について色々たずね、教えていただくことが多い		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、職員が家族へ利用者の様子を伝える手紙を書いている。本人と家族をつなぐ役目をしており、それによって家族が知らなかった事も含めて本人の再発見につながる事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が、ご家族だけでなく親戚等も含め、連絡先がわかる方への連絡を希望され時はその都度支援している	利用者の希望には出来る限り沿えるように支援し、希望がある時には個別ケアで出かけることもあります。知人が弁当持参で来られた際は利用者の居室で一緒に食事してもらったり、海外の孫に手紙を出す支援や事業所の家族への手紙に利用者が書いた手紙を同封するなど今までの関係継続の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入り、会話の取次ぎなどを行う 同じ趣味を持っているならば一緒に行なうアレンジを行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要とする利用者・家族には相談・支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、希望や意向を引き出し、把握するよう努めている。また、ご利用者の思いを、専用紙を用いて全員で作成し、1枚にまとめ自分以外が感じるその利用者の思いを共有できるようにし、ケアにつなげている。	入居の際に今までの暮らしや嗜好等を書いたセンター方式を基に、日々の生活の中で利用者が笑顔になる時を見つけるなどで、利用者の思いを把握するよう努めています。職員全員が個々の利用者の思いを記入したものを取りまとめ意向の把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話を通し、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、状態把握・ケアへの反映を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からは日々の会話、家族からは面会時に話を聞き、それにプラスするかたちで、各職員の意見を加え、今の現状にあった介護計画を作成している	計画作成担当者が利用者の思いを基に、医師・看護師の所見、家族の希望などをふまえて介護計画の案を作成し、職員会議で職員の意見も聞き完成しています。また計画に添ったケアがなされているか日々の記録でチェックをし、介護計画は3ヶ月ごとに見直し現状に即した介護計画を作成をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記入し共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り支援につなげている		

洛和グループホーム太秦(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り支援につなげている。また地域のふれあい清掃に職員だけが参加していたが、参加可能なご利用者も出来る限り参加していく予定である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も希望により、長年慣れ親しんだかかりつけ医を利用できるよう支援している 24時間の医療連携をしている	入居時に事業所として以前からのかかりつけ医の受診を支援している事を伝えています。受診は家族と一緒にいく場合もできるだけ職員も同行し、行けない時は日頃の様子を手紙に書いて伝えています。提携医は月2回の往診があり、週1回の訪問看護を利用し、24時間連絡の取れるよう体制が整えられています。利用者は入居時に歯科検診を受け希望に応じて治療や口腔ケアを受けることができます	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護を受けている 24時間の医療連携をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と地域連携課、職員で連絡を取り合い、退院の準備に備えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特養の申し込みも平行しながら、家族と終末期について話し合い、家族の希望を繰り返し確認しながら、臨終に立ち会える医師を探すなどを行なっている	事業所として終末期の対応が可能であることを家族に伝えています。まだ経験はありませんが、終末期は当該ホームでという家族の強い要望で入退院を繰り返したケースもありました。今後も家族やかかりつけ医等との話し合いを続けながら事業所として支援できるよう、体制を整えて取り組んでいきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習会を受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は1回/2ヶ月 実施 毎年、近隣住民参加の消防訓練も実施 スプリンクラー設置完了	避難訓練は年に1回の消防署の指導など含めて年に6回実施しています。消防署による訓練の後は、アドバイスを受けています。隣に住む事業所の家主や町会の役員、家族も参加しています。地域の避難訓練には利用者と一緒に参加し、消火器を持つ体験もしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの言葉や対応が雑になってくれば、リーダーを中心に職員で注意しあっている	人格を尊重しプライバシーを守ることを事業所として重視し、研修などに力を入れています。利用者に対して馴れ馴れしくなり過ぎる事のないようにリーダーは特に気をつけて、見かけた時などにはその都度注意し、管理者は各ユニットのカンファレンスに参加し職員に伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるような声掛けを行っている 献立を一緒に考えたり、また「何が良いですか？」では決定が困難なご利用者には、2～3種類を提示し、「どれが良いですか？」と選びやすいよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るかぎり各利用者個人のペースを大切に し希望にそえるような支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時に本人が好んで着用される洋服を持参していただき、外出時はその時に各利用者が希望するおしゃれ(洋服・帽子)ができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつ献立を一緒に考え、各利用者にあつた食事準備を共に行っている (下ごしらえ・味付け・盛り付け等)	食事の準備も利用者と職員が一緒にできるようにと考え、包丁を使える利用者は切る作業、使えない利用者はごますり等の手でする作業を行っています。職員も一緒に食卓に着き、同じものを食べながら食事の時間を楽しめるよう支援しています。また、月1回ユニット毎に取り寄せたり外食を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた状態把握をし支援している (昔の食事摂取量等の把握)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方には歯科衛生士による口腔ケアを受け、またその指示に従って、適宜、歯磨きやうがいを行っている 3回/日の口腔ケアができるように取り組んでいる		

洛和グループホーム太秦(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンにあわせた、排泄の声掛けを行っている	入居時ののアセスメントで今までの排泄のパターンを把握し、入居後は様子をみながら排泄チェック表を利用し利用者のリズムを掴んでいます。必要な利用者には夜間声をかけたり、ポータブルトイレを使用することもあります。各利用者の排泄リズムに合わせる事で布パンツに移行できた利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者にあった便秘予防(水分摂取方法)を職員で検討し水分を多く摂ったり、食事内容で便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、各利用者の希望に添えるよう入浴の支援をしている 拒否があれば、それで終わるのではなく、声掛けの方法を変えたり、また声掛けをする職員を交代している	事業所としては午後に週3回ペースで入浴していますが、希望があれば毎日や午前中も可能です。夜を希望する利用者には夕食後の入浴を支援しています。冬は入浴剤を使用し楽しめる工夫もしています。入浴を嫌がる利用者にも対応できるよう、声かけの工夫や足浴も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者に合わせ、好きな時間に休息できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬説明書をわかりやすくまとめ、事務所内にて保管し、いつでも誰でもすぐに確認できるようにしている 服薬はマニュアルに沿って実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者に合った、役割を考え支援している 役割の内容がすぐにわかるよう、1枚にまとめすぐに確認できる所に保管している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	会話の中で、行ってみたい所等を聞き出し、面会時にご家族に伝え、可能であれば出かけられるよう支援している	日々希望にそって散歩を支援しています。外出を好まれない方は、玄関前のベンチでおやつを食べたり外気浴をしています。初詣、花見、祭、食事会などの行事で毎月、利用者全員が外出できるよう計画し実施しています。家族と外食する利用者や入院中の家族を見舞うなど個別の外出の支援もしています。	



洛和グループホーム太秦(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	初詣のときは各利用者にお賽銭を持って頂き参る また外出時に買い物が出来るところでは職員と一緒に買い物を楽しむ		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	架電希望あればその都度支援している 利用者が書いた年賀状や、手紙はその都度家族宛に送る書類に同封している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒にリビングや玄関に季節の花を飾ったり、折り紙等で季節に応じた作品作りを行っている	各フロアには利用者や職員によって生け花が生けられ、季節を感じる事ができます。リビングでは気の合う人との食事を楽しめるよう座席の位置にも配慮しています。また車椅子の利用者には移動がしやすいように考えられています。フロア内で手すりが途切れる箇所にはカラーボックス等を置いて手すり代わりにするように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にイスやベンチ、テーブルを置き、リビング以外にもくつろげる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、今まで使用してこられた部屋がグループホームでも再現でき、安心して過ごして頂けるよう、入居時またはその都度生活用品の搬入を依頼している	各利用者の居室には、墨で書かれた木の表札やかわいい飾りをいっぱいつけた表札など様々な趣向が凝らされています。入居時に使い慣れた物を持って来てもらうよう伝え、テレビや仏壇等を置き、写真等が飾られています。自宅を再現し好きなものを飾ったテーブルと座椅子を置いている利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室の入り口などに段差がなく移動の安全性と自立生活ができるよう工夫している		